

## 地元作業部会第3回会合の概要について

平成 24 年 8 月 28 日

薩摩川内市役所

去る8月8日(水)、第3回薩摩川内市次世代エネルギービジョン策定委員会地元作業部会(以下「地元作業部会」)が開催されたところ、その概要は以下のとおり。

### 【ポイント】

1. 事務局より、7月24日から8月3日にかけて実施した、地区コミュニティ協議会との意見交換概要につき、資料3-2に沿って報告した。
2. これを踏まえ、委員及び委員代理より、地区コミュニティ協議会との意見交換の進め方、具体的事業、及び、今後の進め方等について様々な意見が出された。
3. また、国のエネルギー政策に関する議論の動向等について、事務局から説明した。

1. 日時及び場所:8月8日(水)15時~16時30分(於:川内文化ホール)

### 2. 主な議題

- (1) 地区コミュニティ協議会(9カ所)との意見交換概要
- (2) 国のエネルギー政策の議論の動向等

3. 出席者(順不同):9名

4. 荒木委員、宮原代理(上菌委員代理)、尾崎代理(金沢委員代理)、川口委員、本郷代理(坂口委員代理)、三本委員、田中委員、萍迫委員、吉満委員

5. 委員及び代理から頂いた主なご意見(順不同)

(1) 地区コミュニティの現状

(ア)地区コミュニティに関し、役員の担い手不足が問題となっていると聞く。また、従来から

の居住者と、他地域からの転入者のコミュニケーションがうまくいっていない場合がある。

(イ)若い世代は自治会に加入していない場合があり、地域のコミュニケーション不足の一因となっている。

## (2) 地区コミュニティ協議会との意見交換の進め方

(ア)薩摩川内市の取り組みに関し、市民のイメージは供給側の取り組みであり、需要側の取り組みを市役所が説明してもなかなか理解が進まない印象を持った。

(イ)他方、具体的な事業を説明することで、市民の理解を深めることはできたと感じる。今後も説明の機会を捉え、分かり易く、かつ、市民の関心が高い分野の説明を心掛けることが重要。

(ウ)各コミュニティ協議会は色々な困りごとを抱えているが、エネルギーに関連する提案を求めることは難しいのではないか。人口構成等を把握し、事務局側から具体的提案を行う方がスムーズと考える。

## (3) 具体的事業

(ア)高齢者対策は全国共通の課題であり、本市での取り組みも高齢者対策を中心に進めてはどうか。

(イ)地域特性(例:水害多発地域)を踏まえ、防災と次世代エネルギーを絡める事業を検討することも一案。

(ウ)いずれかの地区に、太陽光発電設備や、いずれかの家庭にHEMSを導入し、市民の目に見える形で普及啓発を行うことが理解増進につながる。今後、地区コミュニティに対し、幾つかの事業メニューを提示し、コミュニティに選択してもらうことも考えるべき。

(エ)具体的事業に関し、今後市役所が検討する事業で、地元企業や電機メーカー等と共同で「スマートタウン」を造成することも一案。

(オ)ごみ収集に関し、HEMSの付加価値情報として、収集車が来ることを知らせる仕組みを検討してはどうか。

(カ)市民からの意見の中で、例えば、コミュニティセンターに太陽光発電設備や(蓄電池代替としての)電気自動車を導入してはどうかとの提案もあった。これらを実際に導入し、具体的用途を地域で検討してもらうことも一案。

(キ)具体的事業の実施に当り、補助制度を活用して実証実験を行う場合があるが、実験終了後、どのようにして地元で成果を定着させるかが重要。

(4) 今後の進め方

- (ア)若い世代は地区コミュニティに参加していない場合も多いため、地区コミュニティ協議会にヒアリングを行えば、どうしても福祉や高齢化の話題になる。若者の雇用ニーズや生活スタイルを把握し、若者にもヒアリングを行い、定住促進のための方策を検討すべき。
- (イ)地区コミュニティ協議会役員や自治会長には、男性の年配者が多いことに今後は、女性や若者との意見交換の機会も設けるべき。
- (ウ)市民だけでなく、市外の方や、薩摩川内市出身者等からも意見を聞いてはどうか。
- (エ)色々な方からアイデアを出してもらい、実施可能なものから進めていくべき。

以上

# 地区コミュニティ協議会

参考

- 薩摩川内市は、住民の活動の場として校区や地区を単位として48協議会を設置。
- 協議会では、地域の事情等を踏まえ、防犯パトロールや特産品づくり、高齢者支援等を実施。

